

ぐゴルジュ状になり、小滝がかかる。左岸のテラスをトラバースして越えると右俣の分岐となる。

右俣には三段の滝がかかっているが、こちらは下降に使うことにして左俣に入る。ナメや小滝がかかるが、いずれも軽く越えられる。左岸にはトロッコ用のレールが残っており、下の鉱山跡までトロッコを引いていたのであろうか。

この先また二俣となり、両方に滝がかかっているが、おもしろそうな右沢に入る。小滝やナメが続き、あきさせない。最後はV字状のナメ床となる。水の無くなるまでつめてから尾根に上がる。(記・ム)

「タイム」 銅沢出合(一〇:〇五)↓  
遊行終了(二:二〇)

## 銅沢左俣

一九八三年一月五日

銅沢左俣の遊行終了後、尾根を八九二・八段ピークまで歩いて右俣に入る。尾根上は所々にそれらしき踏跡が残っている。

右俣は最初急なナメ状の下りであ

るが、そのうちゆるい下りとなってナメもなくなり、平凡なまま左俣との合流点に至る。(記・

「タイム」 下降開始(二:三:二五)↓

二俣(一:三:五〇)

## 鳥屋沢左俣

L

一九八五年九月一四日

一三時福島発。中野第二トンネル

入口手前を右に折れ、踏跡をたどる。

しかしこの踏跡はすぐに消え、短いがいやらしい草付のトラバースの後、反対側からの道と合う。そこから沢

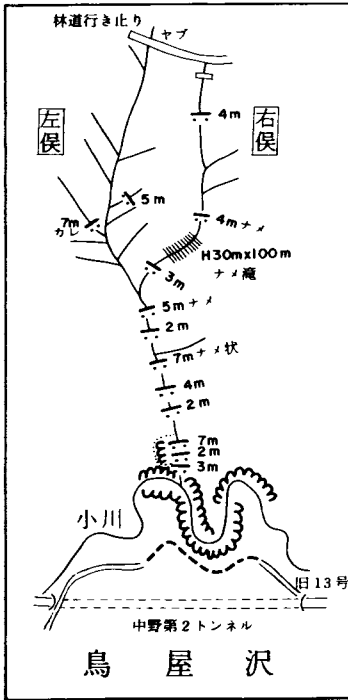
に下降し、鳥屋沢出合へ。

出合には三段、二段、七段と連続する滝がある。最初の二段は登れるが、七段の滝が登れず、右岸を高捲いていたら踏跡らしきものがあつた。

再び沢に降りると、この先は倒木で沢がほとんど埋まっている。滝も倒木の間にでてくるもので、すべて直登できる。

右俣との出合を過ぎて沢が大きく右に曲がるところから、倒木はなくなるものの、平凡な河原歩きとなる。ヤブがかかってきたと思ったら、

地図にはない林道が目の前に現われる。横川林道一三号支線で、出た所は工事の最終地点。来年はもつと奥



まで林道が入っていくだろう。林道を超えて先に進むと、沢はヤブの中となり、遊行終了。

## 鳥屋沢右俣

林道を歩いて右俣下降点をめざす。

途中に林道の工事小屋があり、作業員の人達が休憩していた。小屋の手

前から沢に降りると、堰堤があり、その先しばらくして水が出てくる。

四の

(記)

「タイム」 出合(一四:一五) ↓ 二俣  
(一四:五〇) ↓ 林道(一五:一五)

上

一九八五年九月一日

ナメ滝を過ぎ、沢が右に大きく曲がる地点より、高さ三〇m、長さ一〇〇m程のナメが続くが、ところどころ倒木で埋まっており、容易に下ることが出来る。

すぐ二俣となる。一六時一五分、下降終了。(記)

「タイム」 林道(一五:一五) ↓ 二俣

(一五:五〇) ↓ 下降終了(一六:

一五)